

支部便り

北陸支部 春期中堅企業支援セミナー開催報告

A report of seminar on supporting for small and medium enterprise by Hokuriku branch,
Japan Institute of Light Metals (Annual meeting of Hokuriku branch, FY2015)

松田 健二*

Kenji MATSUDA*

平成27年7月9日(木)13時30分から富山大学工学部大会議室において、北陸支部 平成27年度春期講演会・中堅企業支援セミナーを支部春季講演会と同時開催した。今回は関連学協会にもご協力いただき、(公社)日本金属学会北陸信越支部、(一社)日本鉄鋼協会北陸信越支部、(一社)日本機械学会北陸信越支部、(公社)日本材料学会北陸信越支部、(一社)日本塑性加工学会北陸支部、(公社)日本鋳造工学会北陸支部にご協賛いただき、そして(一社)富山県アルミ産業協会と(一社)富山県機電工業会にご後援いただいた。この紙面をお借りして御礼申し上げます。これら学協会の所属会員にもそれぞれの学協会を通じて熱心にお声がけしていただき、本会北陸支部所属の会員はじめ、今回の講演内容に関連した塗装企業、他学協会ほか97名の聴講者があった。今回も、セミナー前に講師の方々と懇談の場を設けて、和んだ雰囲気ですeminar開始となった。

今回のテーマは軽金属材料の塗装と強化。金属材料の塗装に関する基調講演として「アルミニウムの表面処理」と題して日本ペイント・サーフケミカルズ株式会社 開発部機能材料開発ユニット 松川 真彦 マネージャーから、表面処理、塗装に関する基礎から応用、最近の動向について詳細な講演がなされた。これまでそれほど考慮されなくてもよかった環境への配慮、含まれる元素はもちろん、多様化する対象物の形状や表面状態、今後の国内、海外展開など、多くの話題を詳しく解説いただいた。聴講者とは自動車のペークハード性に関する今後の展開や、環境問題に関する法的規制などについて活発なディスカッションがなされた。

富山大学大学院理工学研究部助教 李 昇原氏からは、「巨大ひずみ加工法による超微細粒アルミニウム合金の時効析出強化」と題して、巨大ひずみ加工法のメリットと基礎、そして適用例が紹介された。今後の大型化や、現在のデメ



図1 「アルミニウムの表面処理」を講演される日本ペイント・サーフケミカルズ株式会社 開発部 機能材料開発ユニットマネージャー 松川 真彦 氏

リットの克服などの質疑がなされた。

最後に北陸支部の特徴の一つである幹事企業11社によって順番に担当いただいている企業発表が行われた。今回は富山住友電工株式会社 技術部アルミ技術課 主席 高井 博昭 氏より、「ボルト用高強度アルミニウム合金線材の実用化状況」について発表がなされた。自動車に数百本使用されるボルトをアルミ化するというもので、これが軽量化に大変有効であること、そしてその実用化、商品化に至ったことが紹介され、聴講企業には大反響であった。

今後も支部会員のニーズに応えながら、異業種あるいはユーザー関連学協会のご協力を得て、地域での新たな出会いの場を提供できる事業を続けていきたい。



図2 「巨大ひずみ加工法による超微細粒アルミニウム合金の時効析出強化」を講演される富山大学 李 昇原 助教

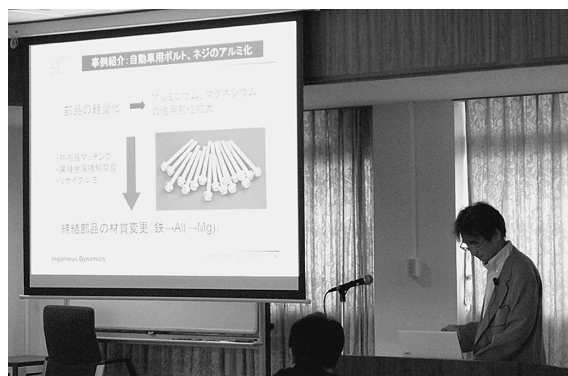


図3 企業発表で登壇された富山住友電工株式会社 技術部アルミ技術課 主席 高井 博昭 氏による「ボルト用高強度アルミニウム合金線材の実用化状況」